

令和5年度 広見中学校 後期 学校評価

基本方針	本校教育の歴史と伝統を継承し、地域と共に創意と活力ある学校づくりに努め、夢や目標を持ち、ふるさと「鬼北」に貢献することのできる、心豊かでたくましく生きる生徒を育てる。		
学校教育目標	たくましく生き抜く生徒を育てる	若さあれ 力あれ 友情あれ	
目指す生徒像	若さあふれる生徒 学ぶ力のある生徒 心の美しい生徒	目指す教師像	元気で若々しい教師 指導力のある教師 仲間と支え合う教師
本年度の重点	元気な学校 感じの良い学校 「ゲンカンが美しい学校」 美しい学校		
1 「確かな学力」を身に付ける教育の推進			
2 生徒の健全育成の推進			
3 ふるさと教育や地域貢献活動の推進			

評価の方法・・・全項目(太枠内)について、下の4段階で評価する。ただし、自分が関わっていない項目や分からない(評価できない)項目は\を記入する。  
評価の観点の良い方から、4-3-2-1の4段階評価で記入する。

重点	評価指標	評価の観点	評価	後期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
1 「確かな学力」を身に付ける教育の推進	1 主体的に学ぶ授業づくり (取組指標) (100%以上、90%以上、80%以上、80%未満)	① 生徒が自己評価できる目当てを示した授業の割合	B ↓ B	◇教職員の目当てを示した授業の割合の肯定割合は変わっていないものの、4の評価が低下している。また、授業の理解度や学力向上について疑問を抱いている保護者の方もいる。 ◆生徒自身が、自らの学習成果を客観的に評価できる仕組みを整えるために、生徒たちの声を聞き、朝学習の内容や形式を見直していく。また、朝学習や学習への取組について、保護者との情報共有を図るようにしたい。	教職員	前期	62.5	37.5	0	0	100	91.8%
		① 朝学習に真剣に取り組む、内容が定着している。			教職員	後期	50	50	0	0	100	
		① 分かりやすい授業に努め、生徒の学力向上に積極的に取り組んでいる。			生徒	前期	28.3	59.2	8.6	3.9	87.5	
		生徒	後期	24	60.3	13.7	2.05	84.3				
		保護者	前期	20	72.3	5.4	0.7	92.3				
		保護者	後期	21.2	65.7	10.9	0.7	86.9				
	2 基礎・基本の徹底と学習習慣の確立 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	② 学習態度評価80点以上の授業日	B ↓ B	◇教職員の評価は高い一方で、生徒自身が学習態度について異なる評価をしており、学習内容の理解度も低下している。保護者の評価が低下していることも、学習の基礎・基本の定着が不足している結果の表れと考えられる。 ◆教職員も生徒も、学習態度や学習内容の理解度について、フィードバックする必要がある。テストなどで正答率が低かった問題を特定し、そのサポート体制を考えていく。また、学習の現状や課題について、保護者とも共有していく必要がある。	教職員	前期	62.5	37.5	0	0	100	83.1%
		② 学習内容をほぼ理解している。			教職員	後期	68.7	31.3	0	0	100	
		② 学習の基礎・基本を身に付け、授業の内容を概ね理解している。			生徒	前期	27.6	58.6	11.8	2	86.2	
		生徒	後期	24.7	54.8	19.9	0.68	79.5				
		保護者	前期	14.9	54.7	28.4	2	69.6				
		保護者	後期	13.1	50.4	29.9	4.4	63.5				
3 コミュニケーション力を伸ばす教育活動 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	③ 書く・話すことや表現することを取り入れた授業の割合	B ↓ B	◇生徒の自己表現の割合に対する教職員の評価が低下している。生徒が他者に自分の考えや意見を伝えることに対して、自信を持って取り組ませたい。 ◆授業計画において、ディスカッションやプレゼンテーションなど、生徒が自分の意見や考えを堂々と発表できる場を設定する。また、個々の生徒へのサポートやフィードバックを通して、生徒の表現力やコミュニケーション力を向上させる。	教職員	前期	25	68.8	6.25	0	93.8	75.0%	
	③ みんなの前で、自分の考えを詳しく説明できている。			教職員	後期	25	62.5	12.5	0	87.5		
				生徒	前期	19.7	42.1	27	11.2	61.8		
	生徒	後期	14.4	42.5	37	6.16	56.9					
	保護者	前期	43.8	50	6.3	0	93.8					
	保護者	後期	25	68.8	6.25	0	93.8					
4 3年間を見通した進路保障 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	④ 自主学習ノートの提出	B ↓ B	◇生徒の自主学習ノートの提出率は高いが、質の高い学習につながっているかを把握しなければならない。家庭学習習慣について、保護者の肯定割合が減少している。 ◆自主学習ノートの内容や質を見直し、生徒にとって意味のある学習方法を確認し、有効活用に向けたサポートをしていく。家庭学習の質を高めるために、生徒が自主的に目標を設定し、達成感を味わえるように指導する。生徒の学習状況の進捗や課題について、保護者に情報提供を行い、協力関係を築いていく。	教職員	前期	35.5	34.9	23	6.6	70.4	74.2%	
	④ ほぼ毎日1時間30分程度の家庭学習の習慣が身に付いている。			教職員	後期	31.5	39	19.2	10.3	70.5		
	④ ほぼ毎日1時間30分程度の家庭学習の習慣が身に付いている。			生徒	前期	26.4	33.1	29	11.5	59.5		
	生徒	後期	19.7	37.2	30.7	10.9	56.9					
	保護者	前期	26.4	33.1	29	11.5	59.5					
	保護者	後期	19.7	37.2	30.7	10.9	56.9					
考察・改善	前期		後期									
	<p>・【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に教職員の肯定割合が高いのに対して、生徒や保護者の肯定割合が低調である。教職員が自信を持って教育活動を施しており、一方で生徒や保護者は現状を分析して、比較的厳しめに自身の評価をしているのではないかと考える。また、生徒や保護者の「確かな学力」を身に付ける教育に対する期待の高さの表れとも感じ取れる。</li> <li>「コミュニケーション力を伸ばす教育」の実践について、教科だけでなく、あらゆる教育活動を通して、粘り強く実践していく必要があると感じた。調査結果に、一喜一憂することなく、ぶれずに学力向上策を推進してほしい。</li> </ul> <p>○ 日頃の授業に対して教職員の満足度がある程度高く、教材・教具の工夫や授業研究の成果が生かされ、生き生きと授業に取り組んでいる生徒の様子が伺える。しかし、一方で、生徒自身や保護者は十分に学力が身につけているとは認識しておらず、家庭学習の習慣化とともに学力向上に向けての課題点であるといえる。今後も1時間1時間の授業を大切にするとともに、学ぶことの楽しさを伝えることで家庭学習の習慣化を図っていきたい。</p>		<p>・【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習について形式的になっているように思う。まずは形式を優先させた学習指導をしながら、生徒へ学習の意義を再認識させていくことが大切である。</li> <li>教職員の学力向上に対する熱意を感じる。しかし、すべての項目において前期から後期への評価がB→Bであるため、来年度は、教職員・生徒・保護者がともに「確かな学力」を身に付けるということを再認識して、1つでも多くA評価となることを期待している。</li> <li>教職員と生徒・保護者の肯定割合に差があるのが気になった。生徒や保護者が厳しめに評価しているのかもしれないが生徒が自信を持って学力が身に付いたと判断できるように支援をしてほしいと思う。</li> <li>○ 「確かな学力」の保障は、本校の生徒にとって大きな課題の1つであった。しかし、教職員の満足度に対して、生徒や保護者の満足度はそれほど高くない結果となった。授業で楽しく学んだ内容がきちんと定着しているのかをしっかりと把握していきたい。また、自主学習の内容や取り組み方について学級担任と生徒、保護者が相談し合える関係づくりに努めたい。</li> </ul>									

重点	評価の観点		評価	後期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均		
2 生徒の健全育成の推進	5 いじめを許さない、いじめに負けない仲間づくり (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	発見から1週間以内に指導・対応できた割合	B ↓ B	◇教職員は、いじめ発見から一週間以内に指導・対応が概ねできている。生徒・保護者は、肯定的な意見が90%を占めている。また、前期に比べ、1の割合が減少している。しかし、生徒の中に数人ではあるが、安心して学校生活を送ることができていない生徒がいる。 ◆これからも、いじめの早期発見・早期解決に向けて、機会を逃さず、丁寧に指導することを心掛けたい。また、不安を抱えた生徒のことを見逃さず、全員が楽しい学校生活を送ることができるように努めていきたい。	教職員	前期	81.3	18.8	0	0	100.1	95.8%		
		いじめにつながるようなトラブルもなく、安心して学校生活を送ることができている。				後期	88	13	0	0	100			
		いじめにつながるようなトラブルもなく、楽しい学校生活を送っている。				生徒	前期	80.3	13.8	4.6	1.3		94.1	
			後期	72	23	3.4	0.7	95.3	保護者	前期	50	41.9	6.1	2
		後期	49	45	5.8	0	93.4							
6 人としての生き方を考える道徳教育や特別活動の充実 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	ボランティア活動(アルミ缶回収、つぼみの会等)への参加の呼び掛けや義援金活動への協力等	C ↓ C	◇わずかではあるものの、前期よりも教職員・生徒とも肯定割合が増加している。しかし、前期と同様、意欲的に活動している生徒と、消極的な生徒との二極化が現在も継続している。 ◆今年度は、様々な活動で忙しく、ボランティア活動を行う時間が十分に確保できなかった。生徒会を中心に、定期的にボランティア活動を企画・運営できるように、行事の精選等を図っていきたい。	教職員	前期	40.9	40.9	18.2	0	81.8	67.9%			
	アルミ缶回収やつぼみの会等のボランティア活動、募金活動への協力を積極的に参加できている。				後期	27	64	9.1	0	90.9				
					生徒	前期	17.8	30.3	36.2	15.8	48.1			
					後期	19	32	33	16	50.7				
7 共生の心を育てる特別支援教育と人権教育 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	人権や共生を意識した指導への取組	A ↓ A	◇教職員同士で密に情報を共有し、生徒一人一人に適した指導を心掛けてきた。また、人権教育強調期間には、人権に関する研修を実施し、生徒の人権意識を高める授業を展開することができるように努めた。その結果、生徒の肯定割合が微増した。 ◆これからも個に応じた対応を心掛け、人権や共生を意識した指導をしていきたい。また、体験活動等を通して、共生の心を更に伸ばしていきたい。	教職員	前期	54.5	45.5	0	0	100	92.8%			
	福祉体験活動などで、共に生きることの大切さを感じることができている。				後期	32	68	0	0	100				
	個性を尊重し、一人一人を大切にした指導に努めている。				生徒	前期	59.9	31.6	5.9	2.6		91.5		
					後期	60	33	5.5	1.4	93.2				
					保護者	前期	24.3	62.8	10.8	1.4	87.1			
					後期	25	60	13	1.5	84.7				
8 命を守る教育の充実 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	自分の命を自分で守る力を育てるための指導	A ↓ A	◇肯定割合は高いが、教職員が4と答えている割合は減少している。ほとんどの生徒・保護者は、安全に学校生活を送ることができていると答えており、前期に比べ肯定割合も微増している。しかし、安全面に気を付けていない生徒も、わずかではあるが存在している。 ◆教職員が、学校の決まりや交通ルールを守ることの指導をきちんと行うように意識して取り組んでいきたい。また、生徒自身が自分の命を守る行動が取れるように、教職員が継続して指導していきたい。	教職員	前期	68.2	27.3	4.6	0	95.5	96.9%			
	安全面に気を付けながら学校生活を送ることができている。				後期	41	55	4.6	0	95.4				
	安全面に配慮した活動を行っている。				生徒	前期	73.7	24.3	1.3	0.7		98		
					後期	73	26	0.7	0.7	98.6				
					保護者	前期	32.4	64.2	2.7	0.7	96.6			
					後期	35	62	2.2	0	97				
考察・改善	前期		後期											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</li> <li>いじめやトラブルの早期解消が実践されており、保護者や生徒にとって安心できる学校になっている。</li> <li>生徒や保護者の中に安心して学校生活を送ることができていないと回答した人が多少でもいることで改善策を講じる必要を感じた。生徒が悩みを相談しやすい環境づくりが必要だと感じる。</li> <li>生徒は校外生活の中で、社会の決まりやマナー等ほぼ守られていると感じている。また、地域で中学生に出会ったとき、挨拶や声掛けをすると、誰もはきはきと返してくれて気持ちが良い。</li> <li>○ 全体的に大きなトラブルやいじめ事案もなく規範意識を高く持って健全に生活することができている。ボランティア活動への取組について生徒からの評価が低い、夏休み中に行われたアルミ缶回収では意欲的に活動する姿が見られた。今後も引続き、福祉活動やボランティア活動などの体験活動を通して生徒の健全育成を図っていきたい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</li> <li>学校行事や生徒会活動の活性化により、生徒の人間関係等が良好になっているように思う。</li> <li>大きないじめは発生していないようで安心しているが、今後も軽微ないじめやトラブルにも早期対応をお願いしたい。</li> <li>教職員・生徒・保護者の肯定割合が全体的に高く、生徒が安心して過ごせる学校になっていると感じる。しかし、人としての生き方を考える道徳教育や特別活動の充実では、特に生徒の肯定割合が低く気になった。</li> <li>○ 大きなトラブルやいじめの認知がなく、全体として規律を守った生活ができていた。夏休みに実施されたアルミ缶回収やPTA除草作業、生徒会活動として日常的に行われているつぼみの会等のボランティア活動への取り組み意識が生徒一人一人に行き届いてない。現在の活動が、全校生徒に行き渡るよう生徒会担当を中心に取り組んでいきたい。</li> </ul>										



重点	評価指標	評価の観点	評価	後期 ◇反省・◆提言						対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
				前期	後期	前期	後期	前期	後期								
3	ふるさと「鬼北」を愛しむ活動への参加 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	ふるさと「鬼北」の良さを感じる活動(地域行事、地域貢献活動等)への参加の呼び掛け	A ↓ A	◇前期は、地域コミュニケーション科の新設に向けた取組として、1年生は地域に向いて課題を見付けたり探求したりする活動を行い、2年生は小学校へのUターン学習や北宇和高校との連携学習を行い、3年生は「くるまご♡ミーティング」において、青年団の方々と交流を行うことができた。後期には、3年生の福祉体験学習や職場体験学習、地域行事である「でちこんか」への参加などを通して、ふるさと「鬼北」の良さを知り、地域の温かさに触れる機会が増えた。これらの活動を通して、生徒たちは自分たちが住む地域に誇りを感じることができている。 ◆鬼北町の教育活動は、地域の方々に多くの支援をしていただきながら生徒の健全育成がなされている。そのため、生徒は地域とのつながりが深く、自分が住む町に誇りを感じている。そうした感謝の気持ちを更に高め、今後も地域行事に積極的に参加したり、広見中学校が地域に貢献できる活動を行ったりしていくことで、ふるさと「鬼北」を愛し、大切にすることを生徒が増えていくと考える。	教職員	前期	45.5	50	4.6	0	95.5	86.2%					
		地域での体験活動や地域の行事等に積極的に参加することができる。			後期	18	64	18	0	81.8							
		地域での体験活動を積極的に取り入れ、地域行事への参加も奨励している。			生徒	前期	36	39	21	3.9	75						
	後期	41	36	19	4.1	77.4											
	保護者	前期	35.8	58.1	6.1	0	93.9										
	後期	32	61	5.1	0	93.4											
10	自己指導力の育成 (取組指標) (90%以上、80%以上、70%以上、70%未満)	学校できちんとした挨拶ができている生徒の割合	C ↓ C	◇学校できちんとした挨拶ができている生徒の割合は、前期よりも後期の評価が上がっている。挨拶の大切さを各学級で話したり、挨拶クラスマッチなど挨拶向上を目指した具体的な取組をすることで、生徒の挨拶に対する意識は高まっていったと考えられる。ゲーム機やスマホ等の通信機器の使用については、前期同様、保護者の評価が低く、家庭での使用の仕方には依然課題があることが伺える。ゲーム機やスマホ等の使用方法について、学校でも話をしていくとともに、家庭でも話をしてルールを定めていくことが必要だと考える。 ◆学校で広がっている気持ちの良い挨拶の輪を、地域に広げていくことが大切である。地域でも挨拶ができる生徒を増やしていきたい。ゲーム機やスマホ等の使用が、学力の低下や基本的生活習慣の乱れにつながっていることは明らかであり、今後も学校と家庭が連携を取りながら、使用のルールについて話し合っていく必要がある。	教職員	前期	31.8	40.9	27.3	0	72.7	74.3%					
		節度を持って、ゲーム機やスマホ等の通信機器を使うことができる。			後期	27	55	18	0	81.8							
		節度を持って、ゲーム機やスマホ等の通信機器を使っている。			生徒	前期	49	34	11	7.2	82.3						
	後期	39	44	12	5.5	82.8											
	保護者	前期	16.2	46.6	31.1	6.1	62.8										
	後期	13	50	28	8	63.5											
11	健全な心と体づくり (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	生徒の部活動への参加状況	A ↓ A	◇部活動の取組に関する評価については、教職員も生徒も保護者も、肯定割合が高く、充実した活動ができていることが確認できた。部活動顧問の熱心な指導と生徒たちの意欲的な取組により、バレーボールの部県総体ベスト8、軟式野球部の県大会優勝、吹奏楽部の県大会金賞(四国大会出場)など、大きな成果も残すことができた。今後も、各部で良い刺激を与え合いながら、校内でも切磋琢磨していきたい。 ◆健全な心と体づくりを進めていくために、部活動の果たす役割は非常に大きい。人間形成を育む場として、今後も部活動の取組の質を高めていくことが求められる。保護者との連携も深めながら、部活動の運営に保護者の方々も協力していただく体制を整えていきたい。	教職員	前期	63.6	36.4	0	0	100	96.4%					
		部活動に一生懸命取り組んでいる。			後期	50	50	0	0	100							
		部活動に一生懸命取り組んでいる。			生徒	前期	76	19	0.7	3.9	95.4						
	後期	79	18	2.7	0.7	96.6											
	保護者	前期	69.6	26.4	2	2	96										
	後期	56	34	5.8	2.2	90.5											
12	夢を育むライフキャリア教育の充実 (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	年間指導計画に従って、計画的にキャリア教育を実施している割合	B ↓ B	◇将来の夢や目標を明確に定め、努力を続けることができている生徒が多くいる中で、将来の夢や目標が見い出せず、目の前の中学校の活動に集中できていない生徒もいるというのが現状である。生徒が前向きな将来の展望を掲げて学校生活を送ることができるように、教育相談などを活用して個々の将来像を明確にしていく必要がある。 ◆生徒たちが、自分の生き方を真剣に考え、そして前向きに努力していくためには、まず自己肯定感を高めていく必要がある。自分の良さや強みを分析し、自分の将来の夢を明確にすることができるよう、今後も指導を継続していく必要がある。そのために、全ての教育活動においてキャリア教育を充実させ、今取り組んでいる努力が将来	教職員	前期	18.2	81.8	0	0	100	86.4%					
		将来の夢や目標を持って、学校生活を送ることができる。			後期	23	68	9.1	0	90.9							
		子供たちが将来の夢や目標を持って活動できるように努めている。			生徒	前期	40	41	16	3.3	80.9						
	後期	38	34	23	5.5	72											
	保護者	前期	20.9	66.2	10.1	0.7	87.1										
	後期	23	64	11	0	87.6											
考察・改善	前期		後期														
	<p>・【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>くるまご♡ミーティングやUターン学習、本屋プロジェクト等、地域の力を活かすことやふるさとへの思いを高め、育むことなど、まさに地域に根差した営みだと思ふ。</li> <li>地域ではめったに中学生と会いません。いまだ中学生が路上などで(見知らぬ)大人に出会った場面でいきなり挨拶するの少ないのではないかと感じています。ただ、こちらから挨拶(声かけ)をすると、みんなははっきりと返してくれて気持ちが和みます。</li> <li>ゲーム機やスマホの使用に対する学校現場における指導や家庭教育の在り方について、特に生徒や保護者の自己指導力向上に対する自覚を高められるような啓発が必要なのではないかと感じる。</li> <li>教職員の大幅な異動により、人員が入り替わる中、学校の伝統や地域を知らない先生方が多くなっているように思う。地域・社会貢献活動の意義や流れを十分に教職員で共有し、生徒がより良い活動ができるように努めてほしい。</li> </ul> <p>○ 地域コミュニケーション科の新設に向けて、各学年において地域学習が総合的な学習の時間の年間指導計画にも組み込まれ、計画的・継続的に地域に根差した教育を営むことができている。このような取組が生徒一人一人のライフキャリア形成に生かされ前向きな将来の展望を持って生活することができるようにしていきたい。また、スマホ等の通信機器の利用の仕方についても子供たちの生活における大きな課題として捉え、各家庭、PTAと連携して対策に取り組んでいきたい。</p>		<p>・【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Uターン学習等の故郷を愛しむ活動は大変良いことで続けてほしいと思う。</li> <li>部活動を通して生徒の頑張りや活躍は地域にも元気を与えていると思う。</li> <li>ゲームやスマホの使い方については、もっと保護者が考えなければならないことだと思ふ。</li> <li>項目10の評価がC→Cであることについて、この項目は学力や基本的生活習慣との関連性が非常に高いと思われる。特に、スマホ・ゲーム機等の使用を生徒自らが自制できるよう、教職員・生徒・保護者が三位一体になってこれらの機器との接し方について深く考えてもらいたい。</li> <li>本年度から地域の行事やイベントがほぼコロナ前の状態に戻った。来年度も本年度と同様に地域行事やイベントが実施されると思う。生徒の皆さんにはこれらの催しに積極的に参加してもらい、地域とのふれあいを楽しむとともに地域の良さを知ってもらいたい。</li> <li>地域のお祭りや行事などに、外部の団体で出演する生徒もいれば、部活動単位で参加する生徒もおり、町と学校とのつながりは様々なところであると感じる。アルミ缶回収なども地域と協力して行うことで、学校の活動を知ってもらい良いきっかけになっていると思う。</li> <li>ゲーム機・スマホの使い方指導は学校でも継続して行っていくが、家庭での指導やルールづくり等で保護者と学校が連携を図っていかねばならない。</li> </ul>														



重点	評価指標	評価の観点		後期 ◇反省・◆提言							対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均	
				教職員	前期	後期	63.6	36.4	0	0									100
4 管理運営・働き方改革の一層の促進	13 危機管理能力の向上 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑬	小さな変化を見逃さず、その日のうちに対応	A	◇主任打合わせやML部会を軸にしながら、学年主任や生徒指導主事の指示の下、概ね適切な対応ができています。また、教頭、主幹教諭の要所を締める助言も射っている。 ◇引き続き自浄力のある集団づくりが肝要である。  ◆生徒指導部会を充実させ、より一貫性のある対応をしていく必要がある。	教職員	前期	後期	63.6	41	36.4	59	0	0	0	0	100	100	100.0%
	14 教育公務員としての資質・能力の向上 (取組指標) (100%、95%以上、90%以上、90%以下)	⑭	「不祥事防止チェックシート」のマーク項目の割合	A	◇交通安全推進協議会での時季に応じた交通安全の呼び掛けが効果的である。教職員の意識も高い。  ◆心の余裕を持って職務に当たりたいが、教職員の多忙感を解消できない。このような状況の中で教職員間の心身の不調が生じないように努めたい。 ◆個人情報の管理や会計管理、物的管理など、互いに声を掛け合いたい。長期にわたり使用していない通帳は担当者が機会を見付けて確認す	教職員	前期	後期	95.5	86	4.5	14	0	0	0	0	100	100	100.0%
	15 働きがいのある職場づくりと働きやすい環境づくりや働き方改革の促進 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑮	同僚への温かい言葉掛けや協力体制の構築、働き方改革の促進	A	◆評価4が少ないことに責任を感じる。 ◆先生方の休日の在校時間の長さが気になる場所がある。 ◆「30分早く働いて、成果をあげる」・・・ひと月11時間の超過勤務の削減につながる。	教職員	前期	後期	31.8	23	63.6	64	4.6	14	0	0	95.4	86.3	90.9%
	16 安全管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑯	事故やけがにつながりそうな行為への即時指導	A	◇すべての教職員が安全管理の意識を持って日々指導に当たることができている。登下校指導や昼休みの巡視も適宜実施することができており、気になる情報を迅速に「報告・連絡・相談」し、対応できる体制が機能している。 ◆教職員間の情報に留まらず、保護者や地域からの情報を大切に、小さな変化を見逃さない目を大切にしていく。	教職員	前期	後期	63.6	59	36.4	41	0	0	0	0	100	100	100.0%
	17 危険箇所の早期発見と早期対応 (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	⑰	安全点検や日常の目視による観察	A	◇毎月20日を安全点検の日として、全教職員が管理担当場所の点検を行っている。修繕等の対応箇所については、管理担当職員が適宜対応するとともに、管理職が必ず点検している。 ◆校舎の移転に伴い点検箇所が大きく変わったが今後も今まで以上に定期的な安全点検や日常の点検を丁寧にやっていく。	教職員	前期	後期	63.6	64	36.4	36	0	0	0	0	100	100	100.0%
	18 情報の共有と管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑱	個人情報に配慮した積極的な情報共有	A	◇ホームページや学校だより、学級通信、各種通信を通じて、学校内の情報を積極的に配信しており、個人情報に配慮しながら情報の共有ができています。しかし、学校行事の様子や部活動の大会結果のHP更新について、保護者からの要望があった。 ◆個人情報をしっかりと管理しつつ、適切な情報公開に努めていく。	教職員	前期	後期	59.1	64	40.9	36	0	0	0	0	100	100	100.0%
	19 厳正な金銭処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑲	マニュアルを厳守した金銭処理	A	◇物品の購入において、担当の係から管理職へ、起案を通して管理体制が整っており、校内のルールに基づいた金銭処理が適正にできている。 ◆今後も金銭の処理に関する不正が起きないように、管理職を中心に、教職員への働き掛けを継続していく。	教職員	前期	後期	81.8	82	18.2	18	0	0	0	0	100	100	100.0%
	20 適正かつ効率的な事務処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑳	期限を厳守した文書処理	A	◇教務主任が週予定表の中に、外部への提出文書の締め切りを記載するなど、教職員間で期限を順守した文書処理の意識が高い。しかし、期限ぎりぎりになって慌てる様子も見受けられるため、計画的な事務処理を徹底したい。 ◆期限の先には、別の誰かの仕事が待っていることを念頭に一人一人が高い意識を持って職務に臨まなければならない。管理職を中心に、チェック体制を強め、速めの処理を行えるように声掛けをしていく。	教職員	前期	後期	50	55	50	46	0	0	0	0	100	100	100.0%
21 組織的に取り組む校務分掌 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	㉑	報告・連絡・相談の習慣化	A	◇管理職・学年部の朝の打合せ、ML部会は機能している。報告・連絡・相談の在り方の再点検が必要である。 ◆引き続き指導後の見届けをしっかりとしていきたい。生徒、保護者に対し、ひと手間を惜しまず、繊細に、抜かりなく関わりたい。	教職員	前期	後期	50	46	50	55	0	0	0	0	100	100	100.0%	
考察・改善	前期			後期															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</li> <li>・ 近年、部活動の地域移行(外部指導者)について問題になっている。広見中の地域では今後どのような流れなのか気になっている。</li> <li>・ 働き方改革については、良好な結果が出ている。さらに、地域連携を含めて学校行事等の重点化と精選を進め、働きやすい職場づくりを進めてほしい。</li> <li>・ 時代とともに変わりゆく教育現場で、柔軟に対応できていると思う。教職員間のコミュニケーションを今まで以上に密にし、教職員全員が働きやすい環境づくりに努めてほしい。</li> <li>・ 先生方の努力によって大変良い学校になっていると思います。今後もよろしくお願ひします。</li> <li>○ すべての項目において、高い自己評価となっている。教職員全体が不正を許さず、教育公務員としての自覚を持って日々職務を遂行していこうとする雰囲気がある。しかし、一方で働き方改革については後れを取っており、全体的に退勤時間を早くしていく手立てを講じていきたい。</li> <li>○ 生徒の様子や施設・設備面などの小さな変化を見逃さないための報告・連絡・相談を更に徹底することで、様々な対応を組織で推進できるよう常に見直していきたい。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</li> <li>・ 新校舎での活動が始まり、危機管理や安全管理において従前の対策等では十分でないことがあると思う。新たな気付きや対策を教職員で共有していってほしい。</li> <li>・ 肯定割合がほぼすべて100%であることがすばらしい。しかし、「働き方改革」については前期よりも9ポイントほど肯定割合が下がっている。教職員の業務量の増加分なのかもしれないが、一変に改革していこうとするのではなく、できる範囲で少しずつ改善していってほしい。</li> <li>・ 項目15の肯定割合が前期から後期では9ポイントほど低下している。教職員間の意思疎通や情報共有をスムーズにして教職員間のコミュニケーションをさらに密にしていきたい。また、業務の効率化や働き方改革を少しでも進めてもらいたい。職員一人一人が自分らしい生活を送り、より幸福な人生を送ることで、生徒たちへの指導にもより一層の広がりが見られるのではないかとと思う。</li> <li>○ 新校舎に引っ越してから、すでに2回(地震、不審者)の避難訓練を行うなど、危機管理や安全管理の徹底に努めている。組織的に危機管理マニュアルを見直すなどして、常日頃から安全管理に気を付けていきたい。</li> <li>○ 働き方改革が進んでいない現状が結果として表れている。日々の退勤時間を少しでも早めていける職場の雰囲気づくりや「ノー残業デー」が絵に描いた餅にならないよう取り組んでいきたい。</li> </ul>														